

博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	橋本 泰央
論文題目	語彙研究による対人特性の構造の研究
<p>審査要旨</p> <p>橋本泰央氏による博士学位申請論文『語彙研究による対人特性の構造の研究』は、パーソナリティの対人的な側面である対人特性について、全般的・歴史的なレビューを行うとともに海外の尺度の翻訳、さらには日本語の辞書から対人特性語を抽出してその構造を検討した、学術的にも価値のある内容で構成されている。</p> <p>本論文で取り組んだ課題はおおきく2つある。1つは、海外で使用されている対人円環モデルを測定する尺度を日本に適用することである。このような試みを行うことによって、対人円環モデルを用いて国際的な比較を行うことを可能とすることが期待される。そして2つ目に、日本語の語彙研究を行うことである。日本語において独自に語彙研究を行うことによって、単に海外からの導入だけではない独自の側面を見出そうと試みた点は、本論文の特筆すべき特徴であろう。</p> <p>第1章では、これまでに検討されてきた各種の対人円環モデルやパーソナリティの円環モデルを概観し、その歴史的な経緯や相互の関係性について論じられている。人間の特性を円環に配置しようとする試み、特に統計的な手法を用いてその表現を行う研究は 1950 年代から行われており、その後数十年間さまざまな方面へと拡張していった。20 世紀終わり頃から 21 世紀に入ると、他のパーソナリティモデルが台頭することで円環モデルはやや下火となるが、円環という理解しやすい構造のため、いくつかの領域では現在でも研究が続けられている。このような理論的な歴史背景が述べられた上で、対人特性の用いられ方として「独立変数として」「従属変数として」「媒介変数として」「法則定立的ネットワークとして」という4つの使用法が整理された。さらに第1章の最後では、本論文全体の目的が述べられている。</p> <p>第2章では、海外で用いられている対人特性尺度を日本語に翻訳し、日本人に適用することでその妥当性を検証している。先行研究で開発されている、パーソナリティの項目プール International Personality Item Pool に基づいて作成された IPIP-Interpersonal Circumplex (IPIP-IPC) を翻訳し、因子構造および円環構造が確認された。この日本語版の IPIP-IPC は、日本で対人円環モデルを検討していくにあたって有用な尺度であると考えられる。</p> <p>第3章では、複数の辞書から人間を形容する語を抽出するところから研究が開始され、そこから対人特性を整理して円環構造を確認する試みが行われている。国語事典から 2461 語が収集され、整理及び先行研究との照合を行いながら単語を精選する試みが進められた。</p> <p>第4章では、前章で抽出された対人特性語を用いて調査が行われ、円環構造を確認することが試みられている。主成分分析のプロットは円環構造を示しており、先行研究と比較しながら抽出された次元と独自の次元について考察が行われている。日本語から円環構造が見出す試みはこれまでに行われておらず、本論文の試みは貴重な知見を提供していると考えられる。</p> <p>第5章では、円環上に布置された対人特性語についてクラスター分析を行うことにより、対人特性語の分類が行われ、さらにそこから日本語を基盤とした対人特性尺度の構成が試みられている。結果から、88 語が8クラスターに分類されており、他の心理特性や SNS 使用との関連が検討された。さらに、使用を容易にするための短縮版尺度の構成も試みられている。この単語リストおよび新たな尺度は日本における基礎的な対人特性として重要な知見となると考えられる。</p>	

氏名 橋本 泰央

第6章では、総合的考察としてここまでの結果がまとめられ、得られた知見についてひとつひとつ丁寧に考察が行われている。また概念を円環状に配列することの意義についても考察されており、現実場面での対人円環モデルの応用など今後の展望についても述べられている。全体として、研究の背景やそれぞれの調査手続き、データの分析手順、そしてその解釈とも手堅くまとめられており、その学術的価値は十分に認められると判断される。

公開審査会においては、論文の要旨が口頭で発表され、質疑応答が行われた。論文の副査からは、全体的な講評と、円環構造の方法論や構造に妥当性に関する質問が出され、橋本氏よりその質問に対する回答が述べられた。いずれの審査者も本研究で行われた試みの学術的価値を十分に評価しており、わが国における他の研究者が参照すべき、貴重な資料を収集し整理していること、そして継続的に行われた努力について、その価値を認める旨の発言がなされた。また公開審査会終了後、主査と副査による審査委員会が開催された。本学位請求論文の内容について再度議論が行われ、その内容が学位にふさわしいものであることが確認された。

以上の論文内容及び審査の結果を踏まえた上で、本論文は博士(文学)早稲田大学の学位を授与するに値するものと判断する。

公開審査会開催日	2020 年 1 月 24 日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	小塩 真司	発達心理学、パーソナリティ心理学	博士(名古屋大学)
審査委員	帯広畜産大学人間科学研究部門・教授	渡邊 芳之	パーソナリティ心理学	博士(東京国際大学)
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	越川 房子	臨床心理学	
審査委員				
審査委員				